

令和元度 第1回久留米市在宅医療・介護連携推進協議会議事概要

日時：令和元年9月11日（月） 19：00～19：45

場所：久留米商工会館5階ホール

出席委員：中尾委員、松隈委員、西岡委員、淡河委員、石橋委員、岡委員、山崎委員、
臼杵委員、青木委員、内田委員、東委員、西田委員、富安委員、南島委員、
古賀委員、村田委員、浦部委員

欠席委員：矢野委員、石竹委員、寶場委員

傍聴者：なし

1. 開会

2. 開会挨拶

3. 議事

(1) 人生の最終段階における医療・ケアの普及啓発のあり方検討部会での取組状況 について（資料1-1、1-2、1-3）

報告者：牟田 文彦氏

（人生の最終段階における医療・ケアの普及・啓発のあり方検討部会長）

（質疑応答）

[会長] 令和元年度のE-FIELDに基づく相談員研修会は、全国で16か所開催される
とのことだが、令和2年度以降全国各地で取り組まれる予定なのか。

[牟田氏] 令和2年2月までに全国16か所で実施するということが、「人生の最終
段階における医療体制整備事業」の受託者である神戸大学において決定している。
県内でも小さな研修会などは取り組まれているようだが、E-FIELDとして取り組ま
れたものは、福岡県では平成28年度が最後となっている。なお、相談員研修会1
6か所については、どの職種でも受けることができ、例年、毎回100人程度が受
講されている。

今回私が出席した「患者の意向を尊重した意思決定のための研修会指導者研修会」
は98人が受講されていた。E-FIELDに基づく相談員研修会を行うには、ファシリ
テーターが15人程度は必要となる。福岡県には6人程度の人材がいるが、充足し
ていないとはいえない。今後、久留米市でもE-FIELDのような取り組みを進めていく
ということになれば、ファシリテーターの確保が必要となる。この点については、
九州がんセンター緩和治療科の大谷氏の協力を得て取り組んでいく。

[会長] その指導者研修会に職種の限定はあるか。

[牟田氏] 看護師やケアマネジャー等いろんな職種が参加しており、医師に限定され
るものではない。

(議決)

[会長] 人生の最終段階における医療・ケアの普及・啓発のあり方検討部会については、報告のとおり承認するという事によろしいか。

《異議なし》

(2) 令和元年度における退院調整ルール運用に係る取り組みについて(資料2)

説明者：事務局

(質疑応答)

[Q 委員] 保険証セットのカバーの配布対象者が要介護認定者ということだが、要支援者は対象にはならないのか。

[事務局] まずは要介護認定者と考えているが要支援者も対象者となる。

[会長] 作成予定部数で十分足りるのか。

[事務局] 配布の状況をみながら、不足が生じることが予想される場合はその際に対応するという事と考えている。

(議決)

[会長] 退院調整ルール運用に係る取り組みについて、事務局の説明のとおり承認するという事によろしいか。

《異議なし》

(総括)

[副会長] ACP 部会と入退院調整部会の両方に関わっているが、医療と介護の連携が着実に進んできている。退院調整ルール運用に係る取り組みにおいて保険証セットの周知は重要。保険証セットのカバーを持っていない対象者には、その必要性を説明し理解してもらうことが大切。人生の最終段階における医療・ケアの普及啓発の取り組みの一つである、患者の意思を共有するためのフォーマットは、本人がどのように考えているのか、どうしたいのかについて話し合う際に有用だと考えている。今後も積極的に取り組みに関わっていきたい。

4. 閉会

《了》